

8月9日(月曜日)
ドル/円

日米での金融緩和の可能性が注目される

6日(金)の主な推移

NYダウ平均

10653.56ドル
(-21.42ドル)

米長期金利 (10年債利回り)

2.8201%
(-0.0828%)

NY原油先物

80.70ドル
(-1.31ドル)

チャート: 30分足 6日(金)朝6時 ~ 7日(土)朝6時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所:外為どっとコム

①

安く始まった日経平均株価が下げ幅を圧縮したことや、仲値公示に向けた実需のドル買い・円売りが出たことに加え、NY市場で発表が予定されている米7月雇用統計を意識したショートカバーが出たことにより、ドル/円はじり高となり、15時過ぎには86.19円まで反発した。しかしその後は米雇用統計を控え、様子見ムードが漂い、ドル/円は小動きが続いた。

②

米7月雇用統計は失業率が9.5%となり、事前予想(9.6%)を下回った。しかし非農業部門雇用者数は13.1万人減、民間部門雇用者数は7.1万人増となり、それぞれ事前予想(6.5万人減、9.0万人増)を下回る結果となり、ドル/円は85.01円まで下げた。しかし85.00円の節目を割り込まなかったことで、その後はドルの買い戻しが優勢となり、また米ダウ平均株価が終盤にかけて下げ幅を圧縮したことも加わり、ドル/円は引けにかけて85.40円前後まで反発した。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加緩和観測
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 84.30— 85.90円

先週末に発表された米7月雇用統計では米国の雇用の回復が鈍いことを示す結果となり、一部では10日の米連邦公開市場委員会(FOMC)での金融緩和を期待する声が強まっている。また9~10日に日銀金融政策決定会合も予定されており、仮に米国が緩和を行い、日本が行わなかった場合、昨年11月のようにロンドン銀行間取引金利(LIBOR)での日米の6か月物の短期金利が逆転することにより、円高圧力がかかる展開も考えられる。本日は手掛かり材料難の中、日米の当局が一段の金融緩和に乗り出すのか、その思惑が相場を左右すると見られる。

またドル/円の85.00円には大量のオプションがあると言われており、6日の安値からの反発はその防戦買いによるところが大きいと言われてしている。仮に85円の節目を割り込む場合、ストップロスを巻き込み下げ足を速める動きが予想されると共に、本邦当局者から円高けん制発言による相場反転の可能性にも注意したい。

そのほか先週金曜の米ダウ平均株価は小幅な下げに留まったことから、もし本日の日欧など主要国の株価が堅調に推移した場合、一旦はリスク回避の動きが後退しドル/円が買い戻される展開へとつながってもおかしくはない。(川畑)

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
8/9(月)	—	—	特になし	—	—

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com